



熊本市立大江小学校

ときめき

2022.6.10(金)

No. 26



文責
松永



先週に続いての学校朝会でした(6月8日)

1日の学校朝会では、今月の一文字である「自」をもとに話をしました。2週続けての学校朝会となりましたが、今回は、熊本市が設定している6月の「いじめ根絶月間」に合わせた形で講話をしました。熊本市では、子ども一人一人が命を大切にし、安心して生活できる学級・学校をつくることを目指して、全小中学校でいじめ根絶のための様々な取組を行うことになっています。今年度の熊本市のテーマは、『いじめは絶対にゆるさない』～いじめが起きた時、どうするかみんなでお考えよう～です。本校でも、子どもたちに「いじめや差別をしない・許さない力」をつけるために、いじめを防ぐための授業や仲間づくり、早期発見・早期解決のために取り組んでいきます。毎月実施している「きずなアンケート」もその一つで、継続して行うことで子ども理解を深めるようにしていきたいと思っています。

8日の学校朝会では、昨年度の心のアンケートの結果から、「学校が楽しい」と答えた子どもが95%に留まっていた。また、「誰かの役に立っている」と思っている子どもは82%だったので、いずれも100%にしていきたいと話しました。そして、いじめには、①暴力によるいじめ ②言葉の暴力によるいじめ ③空気によるいじめ があることを伝え、「いじめは絶対にしてはいけない」ということを伝えるため、イソップ童話の「子どもとカエル」という話を紹介しました。池で石投げを楽しんでいた子どもたちに、池の中からカエルが訴えます。「お願いですから石を投げるのをやめてください。」すると、子どもたちはこう答えました。「自分たちは何も悪いことをしない。ただ、石を投げて遊んでいるだけだ。」続けてカエルが言った言葉は、「皆さんはそうかも知れませんが、遊び半分に投げる石で、池の中のカエルたちはひどいけがをさせていただきます。そのうちに死んでしまう者も出るかも知れません。あなたたちには遊びでも、私たちにとっては命の問題なのです。」と…。このお話の子どもたちとカエルは、いじている人といじめられている人の関係と通じるものがあり、いじている方は遊び半分でも、いじめられている方は命の問題だということを伝えたかったのです。どんな理由があろうと、「いじめ」は絶対に許さない大江小の子どもたちであってほしいです。いじめをするのも、やめるのも、とめるのも一人一人の「心」です。いじめをしない、させない、許さない学校にしていくのは、自分自身です。自分ができることを考えて行動して行ってほしいと思います。ご家庭におかれましても、ご家族のふれ合いの中で、お子さんの心の状態の把握に努めていただければありがたいです。何か気になることがありましたら、担任(学校)にお知らせください。



生活目標は「思いやりの気持ちを大切にしよう」です。

私の話が続いて、生徒指導担当の船田先生が、今月の生活目標「思いやりの気持ちを大切にしよう」についての話がありました。やさしい言葉をつかうことや「もし自分だったら」と考えて行動することなど、思いやりの気持ちをもつことも、いじめ防止につながる…といったメッセージでした。自分からの姿勢でのぞんでみてください。

